

Road to
ミラノ・コルティナ
'26
五輪

高橋「集大成」 バチッと集中

スケルトン男子 3度目代表

平昌五輪スケルトン男子で滑走する高橋

2018年2月



41歳 なお成長

現役最後と決めたシーズン。スケルトン男子の高橋弘篤（エフアシスト、仙台大出、宮城県富谷市出身）が、ミラノ・コルティナ冬季五輪で2大会ぶり3度目の代表に滑り込んだ。「集大成」の祭典へ、41歳にしてなお成長を続けるベテランは「参加できて良かったで終わらせるつもりは全くない。雰囲気を楽しみたいしながら、勝負の瞬間はバチッと集中して挑む」と力強く話す。

前回北京大会出場を逃し、競技を続けるかどうか悩んだが「自分自身のパフ

フォーマンスは常に向上している」と諦めなかった。今季は2019〜20年以來となる国際大会出場を果たし「全てのコースで、そりを押して走るプッシュタイムは自己ベストを更新した」。さらなる進化を遂げた。多いときは年に4度血液検査を実施し、自分の体に特化したオリジナルのプロテインを摂取するなど、食生活から気を使っている。

年齢を重ねても奮闘する姿に、海外勢のライバルから「本当に41歳か。速すぎるぞ」と驚かれるほどだという。

腹はいとなって頭を前にして氷上を滑走し、最高速度は時速130キロを超える競技。「水が流れ、魚が泳いでいるような、ストレスのない」理想の滑りを、ラストランまで追い求める。